# 東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2011年1月7日

# 預言者ムハンマドの変化に対する態度

親愛なるムスリムの皆様。変化、発展、発達、そして活力は人類に幸福をもたらすあゆみです。預言者ムハンマドのメッセージはまず何よりも、その時代の宗教、社会、経済、道徳、文化を改良するという点で大きな変化でした。従ってそのお方が預言者であられた時代は全て、変化に満ちていました。ただ、このお方はこの変化を実現させる際には、神の啓示と矛盾しない、理性や人間の本質に適ったものである事柄を壊すことはありませんでした。なぜなら預言者ムハンマドの目的は社会における価値を何が何でもひっくり返すことではなく、あらゆる分野での支障をただすことだったからです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。預言者ムハンマドの生涯には、新しい変化を受け入れていたことを示す多くの例があります。この点に関するいくつかの例を示しましょう。預言者モスクでは以前、夜と朝の礼拝の時、ナツメヤシの枝や葉を燃やして明かりとしていました。ある金曜日の夜、タミーム・アッダーリがモスクに灯明を灯し、明かりとしました。預言者ムハンマドはモスクに来た時、それらを誰が灯したのかと尋ねました。タミーム・アッダーリが灯したということを聞き、彼に次のように言ったのでした。「あなたはイスラームに光を与えた。イスラームの礼拝所を飾った。アッラーがあなたに、現世と来世で光を与えてくださいますように」この出来事は預言者ムハンマドに大きな影響を与えたのであり、タミーム・アッダーリの、灯明を灯した召使の名をシラージュ（灯明）と変えさせたほどでした。

預言者ムハンマドが変化を受け入れる方であったことを示すものは、戦争の分野において他民族の技術を受け入れていたことです。塹壕の戦いでは、町の防衛の為にイランの防衛技術を受け入れ、セルマン・ファリシーの提案に沿って町の周囲に塹壕を掘ったことが諸文献で伝えられています。またターイフの包囲では、イランでは投石器が使われていることを教えたセルマン・ファリシーの提案に沿って投石器が使われることとなり、彼にそれを造らせたのでした。こうした例は皆、預言者ムハンマドが人間の理性が生み出した新しい変化を自分のものとし、さらに発展させることを推奨されていたことを示すものです。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドの人格はご自身の時代においてもそうであったように、それ以降の時代においてもイスラーム社会の生き方のための模範です。このことに関するクルアーンの言葉は次のようなものがあります。「本当に**アッラー**の使徒は、**アッラー**と終末の日を熱望する者、**アッラー**を多く唱念する者にとって、立派な模範であった。」（部族連合章第21節）

このクルアーンの言葉が、預言者ムハンマドが生きられた時代、地域の条件にあわせ、食べていた食べ物、用いていたもの、身につけていた衣装、要するにその生涯の形式的な側面を模範とすることを命じてはいないことは明白です。そもそもその場合預言者ムハンマドを模範にすることは困難であるか、不可能となるということは明らかでしょう。もしそのように見なすのであれば、今日、乗り物としてラクダを、食べ物としてナツメヤシを、衣装としてはイエメンの衣装を求めることが必要となるのです。事実預言者ムハンマドは、預言者として活動される以前に食べていたものが何であれ、それ以降も同じものを食べていました。また着ていたものも同様でした。預言者として活動を始めてから衣装の様式を変えたというようなことはどの文献でも記録されていないのです。従ってムスリムにとって模範とされ、実践されるべき点は、預言者ムハンマドの正直さ、公正さ、寛容さ、誠実さ、柔和さ、勤勉さ、満足、慈しみ、慈悲、気前のよさ、そして人間、愛情、敬意、そして平和に対し置かれていた重要性といったその徳なのです。